

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 22  
2024・2・5

1 第 16 回ベルリン世界農業大臣会議：世界の全人口に十分な食料を  
ー世界 65 カ国の農業大臣が公平な食料の権利を強調ー (2024・1・20)

約 65 カ国の農業大臣は、持続可能な世界の農業・食料システムの構築を目指している。連邦大臣オズデミール議長のもとに世界の 65 カ国からの農業大臣が、農業・食料システムへの必要な変革の継続に合意した。農業大臣会議の最終宣言は全ての人々のために、公平な食料の権利の実行を強調している。



第 16 回世界農業大臣会議

各農業大臣は気候と生物多様性の危機が、持続可能な食料生産の不安定化の原因と認知している。このため、農業の生産方法とテクノロジーの奨励が重要としている。さらにこのことは、ウクライナへのロシアの国際法違反の侵略が、世界の飢餓を劇的に高めていることは明白である。

ベルリン世界農業大臣会議の締めくくりに際して、我々の指針となる「将来の食料システム：飢餓の無い世界を共同で」を、立ち上げるとオズデミール大臣が説明した。” 10 人に 1 人が空腹のままベットに入っている” 我々はこの現実に直面して、国際社会として互いに密接になるべきであるが、しかし世界は分裂している。我々農業大臣はこの会議通じて、明確なシグナルを送ったが、これでもって我々は納得できないが、しかし、望んでいる。農業政策はいつも農業外交を意味している。我々は食料の安全を共同で創り出す。一見して矛盾した挑戦であるが、我々は懸け橋を築く人として協力していく。我々は食料の権利を道具にしてはならない。我々は生産力向上に努力するとき、気候危機と種の絶滅を無視したとき、我々の農業の基礎を既に危機に晒している。

いたるところで暴風や洪水で穀物が枯死し、収量が全滅している。気候危機は、農業にとって差し迫った脅威であることが広く知られている。我々は現実的にこの問題を単独では解決できない。そのため、この宣言は我々自身の任務であり、我々の政府の中で自然資源の保護のために闘う、その追い風を与えてくれた。全政策分野は、全ての人々の食料の権利を持続的に実現するために、共同でそして一貫して行動しなければならない。これは農業外交の課題でもある。

農業政策は世界的な視点を創り出している。農業における女性、先住民族そして次世代のために。そして我々はグローバルサウス（訳注・発展途上国や新興経済国）と、真のパートナーシップを築く。現地での食料供給を強化し、そして依存関係を低下させるためにも。そのための鍵は、無条件に科学的な知見の移転である。例えばドイツは、アフリカ同盟との未来に向けたパートナーシップの模範を示している。ベルリン農業大臣会議と並んで 11 の国際組織の高位代表者も、食料への適切な権利を実現させるために議論に参加している。

#### **第16回ベルリン世界農業大臣会議の主な成果：**

##### **◎ 食料に対する人間の権利：**

適切な食料は全て自由に入手でき、手頃な価格で購入できること。

FAO の食料に対する権利の自主ガイドラインの実施を強化し、そしてなお認知度を高める。

##### **◎ 食料システムの持続的そして強力な転換：**

参加大臣はこの転換を加速するために、持続的、地域的に現地に適し、弾力的な農業を約束した。これは「目標 2：飢餓をゼロに」とさらにアジェンダ 2030 の持続可能性の目標達成のためである。

##### **◎ 気候保護と生物多様性：**

農業生態系の評価、アグロフォレストリー（訳注・農業、畜産と林業を組合わせた農業生産システム。水の収支安定、風による土壌浸食の防止、生態系の保護の効果）と循環経済は、気候危機と生物多様性の喪失を防ぐことに貢献する。地域的な循環と地域供給チェーン並びに持続的な消費を奨励する。

◎ **脆弱グループ（社会的弱者）の強化：**

高齢者、女性、青年、子供、精神的・身体的障害者などこのグループは、食料の窮乏、栄養不足そして複数の危機に特に遭遇しており、特別に強化が必用である。平等の権利をもつ特に若い世代、女性が決定的に重要である。

◎ **農業分野における女性の役割強化：**

農業分野において指導的な立場（管理職）の女性も含めて、不平等な扱いを無くし、女性の立場を強化しなければならない。女性は土地管理及び経営部門への参画を、もっと多くすべきである。

◎ **ガバナンスの強化**

持続性は機能的な構造を必要とする。これは土地所有権の確保、高品質な種子の確保並びに資金調達と、農業インフラ構造への公平なアクセスが重要である。これらについてシステムのなアプローチのために、分野を越えた調整と政策の一貫性が重要である。

◎ **グローバルな食品廃棄の半減化：**

2030年までに全価値生産チェーンに沿った食品の廃棄—無駄を、劇的に減少させる。そのため、具体的な目標とともに、効果的な政策を必要とする。食料の無駄と廃棄は、明確に測定すること。そして全ての関係者が原料生産と私的な家政まで参画し、協力しなければならない。

◎ **肥料—農薬管理の改善：**

持続的な肥料生産—利用は、強化されるべきである。生産を安定化し、そして世界的に供給不足を防ぐために。肥料管理は総合的、持続的な土地管理の一部である。グローバルサウスの国々に対して、肥料の持続的な生産を支援する。



飢餓は子供の体重を奪う。農業分野の女性の立場強化軽すぎる体重



アグロフォレストリーは気候—生態系保護に貢献

## 2 2024 年度ドイツ連邦有機農業コンクールで優れた経営を表彰

—受賞農場は共同で将来を指向した農業を実現— (2024・1・25)

オズデミール連邦食料・農業大臣は、今日（1月25日）ベルリン「緑の週間」において、2024年度ドイツ連邦有機農業コンクールの優秀経営を表彰した。審査委員会は、

① バーデン・ヴュルテンベルグ州の生態系的、経済的に持続可能な有機一育種農業とバイオガス生産を実現しているハスラッハ農場  
② ヘッセン州の動物福祉を重視した重視したアンガス牛飼育と有機農業の輪作  
③ シュレースヴィックホルシュタイン州の有機野菜経営と、遺伝子組換え技術を使用しない有機野菜用の育種を行っているクリスチャンセン農場



2024年度受賞の3農場（左から  
4人目がオズデミール大臣）  
体系を確立しているファーレンバッハ有機

農場  
③ シュレースヴィックホルシュタイン州の有機野菜経営と、遺伝子組換え技術を使用しない有機野菜用の育種を行っているクリスチャンセン農場を推薦した。この受賞経営に共通していることは、全て共同でかつ将来を指向した資源節減と持続可能な農業実現のために、具体的な問題解決の事例を提供していることである。そして生物多様性—気候危機並びに動物保護の差し迫っている問題に対する回答を提起している。これらの受賞経営は、それぞれ賞金12 500ユーロ（約200万円 1ユーロ160円で換算）が授与された。

オズデミール大臣は、この賞金授与に際して述べた：“この3受賞経営は、将来を見据えた農業がどのように営まれ、そして報われているのか、農場の創造力と愛着心そして革新の精神でもって、私を感動させてくれた。バーデン・ヴュルテンベルグ州のハスラッハ農場は、良く知られた高いレベルでの有機農業を体験させてくれるだけでなく、家畜飼育を通じた畑作からバイオガス生産まで、非常に重要な循環経済を実現している。そしてこれを高地のシュバルツバルト（黒い森）で営み、持続可能なエネルギーを地域内で供給している。ヘッセン州のファーレンバッハ農場は、畜産における優れた技術と収益性のある家畜経営を示してくれた。威厳あるアンガス牛（訳注・スコットランド原産の古い品種。角が無く気性穏やか。柔らかい赤肉）はこの農場で約200頭飼育され、特別な地位を占めている。農場内にある精肉店は、有機食肉として地域に供給している。

ドイツ北部のホルシュタイン州におけるクリスチャン農場は、情熱と長い忍耐をもって有機野菜品種を育成している。遺伝子組み換え技術によらない、独自の実用的な有機栽培向きの野菜品種を生み出している。これは素晴らしい先駆的な成果である。多くの農業者は有機農業に適した有機品種でかつ遺伝子組み換えでない品種を、特許フリーで使用できる。

全ての受賞者は、多くの活動力を創り出している。今日より多くのことが、この活動力を必要としている。環境一気候に優しい農業のための問題解決は、実践の中で実証される。これは困難な時代の中で多くの利益をもたらすことであり、社会全体で活用できる。そのため私は連邦コンクール受賞者に、祝意とお礼を述べたい。

### 背 景：

連邦食料・農業省は、ドイツ連邦有機農業コンクール有機農業経営において、革新的な構想を発展させ、そして同時に有機農業を成功裡に営んでいることでもって表彰している。中立的立場の審査委員会は、広範な応募者の中からこの3農場を推薦した。

この受賞農場は、長年にわたってドイツにおける革新的、持続可能な農業の模範とモーターとして評価された。

### ドイツ連邦有機農業コンクール受賞農場の紹介：

#### ◎ ハスラッハ農場      オーバーシュバルツヴァルト バーデン ヴュルテンベルグ州

この農場は有機で特に経済的に持続可能な経営構想について受賞した。畑作と畜産の複合経営で、野菜、家畜とバイオガス生産をパーフェクトに組み合わせ、継続的に発展させてきた。畑作においては、多くの作物、珍しい作物例えばキヌア（訳注1）を栽培している。これは増大する乾燥条件の中でも、良い収穫を得ている。バイオガス施設の原材料は、93%が同農場の生産物を投入している。具体的にクローバー、アルファルファの混作牧草、牛糞を用いている。この施設で発電された電力は、この地域の4000人以上に供給されている。廃熱の100%がレーフインゲン町の暖房ネットワークに供給されている。約90頭の乳牛群は古く珍しい地元品種のヒンターワルド（訳注・2）である。同農場独自の自然保護地域の草でもって、専用的に肥育している。

（訳注1・キヌアーヒユ科アカザ属植物でホウレンソウやビートと同科。南米アンデス                      山脈の高地で、数千年前から食用に栽培されている雑穀）

（訳注2・ヒンターワルド牛・シュバルツバルドの地元の古い品種。乳肉兼用種。急な草地、寒い冬に対処可能）



オズデミール大臣から表彰状を授与されるハスラッハ農場の家族



家族の写真



地元の古い品種・ヒンターワールド牛



牛の高い飼育技術で見学者が多い。



乾燥に強い  
キヌアの栽培



作物栽培、バイオガス、太陽光  
発電を組合わせた農場の全景



バイオガス発電施設

### ◎ ファーレンバッハ有機農場 ヴィッツェンハウゼン ヘッセン州

この有機農場は、特に家畜の福祉、地域性そして職人技に焦点をあてた持続可能な構想によって受賞した。この農場の経営主夫妻は、2017年に経営を引継ぎ、そして非常にダイナミックに経営を発展させてきた。現在200頭弱の肉牛、アバデーアン・アンガス種（訳注3）を飼育している。この牛はこの経営に非常に適した肥育をされており、ストレスの無い方法でと殺され、精肉に加工され農場所有の有機精肉店で加工されている。この肉は殆どこの地域内で販売されている。

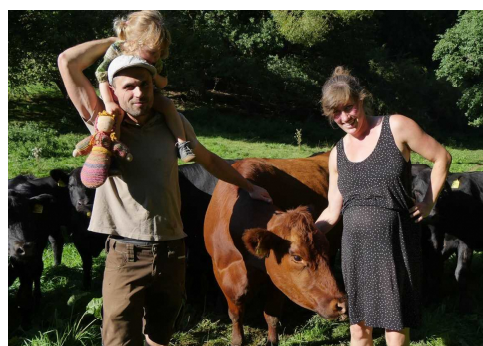
穀物加工についても、農場で外部委託のベーカリーと共同作業を実施している。畑作においてはクローバー混作、小麦、ライ麦、エンマー小麦（訳注4）、スペルト小麦、オーツ麦（オートミール用）、オオアザミのような油糧種子を栽培している。穀物加工についても、農場で外部委託のベーカリーと共同作業を行っている。

（訳注3・アンガス牛：スコットランド原産、角がなく気象穏やか、柔らかい赤肉が特徴）

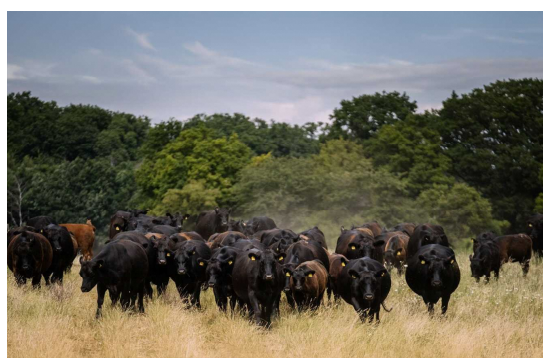
（訳注・4：エンマー小麦：近東で最初に栽培された古代世界で広く栽培され、現在はヨーロッパ、アジアの山岳地帯で僅かに栽培されている古代穀物）



オズデミール大臣から祝福される  
ファーレンバッハ有機農場



農場のオーナー・ガブリエル夫妻



アバディーン アンガス牛



有機肉は殆ど地域内に供給



農場内の有機精肉店で加工を



オーツ麦



スペルト小麦

◎ クリスチャンセン有機農場 シュレースビック

シュレースビッカーホルシュタイン州

この農場は、有機野菜の育種分野における経営主の大きな成果が表彰された。商業園芸と並んで経営主を含めた経営スタッフが、独自の実用的な有機野菜の育種事業を立ち上げた。遺伝子組換え技術を使わない効率的な、そして自ら繁殖を行う有機栽培用の品種開発を行っている。有機農業に転換したのは、1983年、約40年前のことである。現在の経営面積は120haでその内所有地は42haである。主な栽培野菜は、キャベツ、バレイショ、ニンジン、パースニップ（セリ科の根菜類、別名シロニンジン）等である。有機野菜育種のための作物育種における、国内及びEU全体の新規設定に関して、2010年から非営利団体 Saat:gut e.V.と協力を行っている。



オズデミール大臣が受賞を祝う。



喜びのクリスチャンセン一家



新品種作出のための交配作業



秋には採種作業



パースニップ（シロニンジン）



カリフラワールの新品種育成



### 3 ベルリンで開催された 2024 年「緑の週間」が成功裏に終了 (2024・1・29)

ー連邦食料・農業省が展示ホールでドイツの農業課題の情報提供ー

連邦食料・農業省は、展示ホール 23a と 27 で有機農業など、ドイツの重要な取り組みへに関するイベントや展示等で、来場者に情報提供を行った。



「農業は高品質な食料を生産する一持続可能に！」

連邦食料・農業省の 23a ホールは、各テーマ分野の多面的で対話式のプログラムを提供していた。様々なテーマリスト、つまり高品質な食料、種の多様性と気候保護、漁業、農村地域そして地域の価値創造、将来を見据えた家畜の飼育並びに農業、そして世界的に食料の権利が重要である。

家畜の飼育方法の表示は何を情報提供するか？ ガーデニングするときに泥炭を含まない土壌使用がなぜ重要か？ これへの答えはホールのクイズで与えられる。

#### ホール23aと27

「有機？さてロゴマークは」ーこのモットーのもとに、連邦プログラム有機農業 (BÖL) はホール 23a で紹介している。来場者は、具体的には情報提供、試食、議論しながら、見本市で有機産物の付加価値を知ることができる。ホール 27 において「再生可能資源プロモーター FNR」と、連邦環境・自然保護・建設・原子炉安全省 (BMUV) が、湿地土壌の保護と泥炭減少について、情報提供を行った。



緑の週間のメイン会場



オズデミール大臣の開会挨拶



2024 ベルリン 緑の週間のポスター



農村の伝統的な踊りで盛り上げる。



有機食品の試食・販売コーナー



有機一食品コーナーは大人気

## 2024年「緑の週間」を振り返ってー1月19日はオープニングセレモニー

そして農と食のグローバルフォーラム、世界農業大臣会議、国際農村青年会議

オズデミール大臣：「私はずっと楽しみにしていた。緑の週間が始まったという文章に接したとき、感慨深かった」と、1月18日の開会イベントで述べた。緑の週間で匂いをかぎ、味わいそして勿論体験し、話合うことが出来た。

重点テーマは、「未来の食料システム」であった。1月19日のオープンセレモニーでは、ポーランド農業大臣との政治的な対話、1月17日から20日までの「グローバルフォーラム食料と農業 (GFFA)」が開催され、重点テーマは「将来の食料システムー飢餓のない世界を共同で」であった。

この会議は農業一食料政策に関する連邦食料・農業省の国際会議である。ベルリン農業大臣会議は、GFFAのクライマックスであった。多くの訪問者が私たちのホール23aに会場し、様々な情報を入手した。例えば、農業におけるAIプロジェクト（人工知能）、有機農業又は都市園芸の革新的なプログラムである。1月22日の都市園芸革新プロジェクトには、ドイツ連邦首相オラフ・ショルツが来賓として招かれた。



グローバルフォーラム・食と農業  
オープニングセレモニー



緑の週間に併催・国際農業大臣会議

### 国際農業青年会議

世界 5 大陸の 20 カ国から農業青年がベルリンに集い、未来の農業と食料システムについて話し合った。そして世界と大陸に橋を築くことを申し合わせた。

1 月 21 日のパネルディスカッションにオズデミール大臣が招かれ、世界の農業青年との交流が行われた。



パネルディスカッション・畜産の未来は



気候保護のため青年の役割を語る。



各国の青年達とオズデミール大臣（右から 2 人目）が語る。



各国青年たちの交流の夕べ

サプライチェーン（供給連鎖）は、1月23日にホール23aにベーキング（全粒）小麦を代表として展示した。オズデミール大臣は、ベーキング小麦の品質基準拡大の宣言にサインを行った。訪問者は緑の週間の展示やイベントで多様な農業に触れて、わくわくするような印象を得ることが出来た。

家畜の福祉のブースでは、責任者ロバートレーマーが新しい提案を行った。家畜の福祉は、4つの飼育形態のラベル表示から5に変更することであった。

オズデミールは、「我々は農業者と関係者のこの決断を喜んでいる。ラベルを4段階から5段階に変更し、これを家畜の公的な表示に適応させることに感謝したい」と述べた。

### **2024年のパンは小麦の全粒粉パンを（訳注）！**

オズデミール大臣は、ドイツベーカリーとともに緑の週間で全粒粉パンを紹介し、そしてナイフを入れた。

（訳注・全粒粉パンー小麦粒を皮ごと粉砕した粉で製造したパン）

### **2024年有機農業コンクール優秀農場を表彰**

我々は有機農業賞でもって未来志向的な構想を、成果多く実践している有機農業経営を表彰する。オズデミール大臣は3つの有機農場に敬意を表した。来場した多くの人々はこれらの有機農場を、良く理解することができた。

### **未来フォーラム・農村の発展**

緑の週間後半は、農村地域に焦点をあてた。第17回「我々のむらは将来を」コンクールで、特にむらづくりにボランティアとして参加し、それによって形成された魅力的なむらの生活について表彰した。このコンクールには、ドイツ全土から約1100の村が参加している。そしてその中から22の村がファイナル審査に到達した。このうち、7村が金賞、9村が銀賞、同じく9村が銅賞でもって、オズデミール大臣から表彰された。

### **農村未来フォーラム「農村・価値を創り出すー強い農村地域」**

1月24日と25日に開催された農村未来フォーラムが、地域の価値創造による強い農村づくりをテーマに開催された。特に石油から太陽光や風力など、再生可能な資源によるエネルギー転換に関心が寄せられた。主催者はオズデミール大臣、並びに連邦経済大臣Dr.ロバートハーベックである。2日間で1800人以上が、直接またはデジタルで参加し、議論を行った。



有機農業のブースで交流するショルツ首相



農村未来フォーラム・エネルギーの転換



2024年度連邦コンクール「わが村は未来を」  
受賞村の表彰式



「わが村は未来を」の受賞村



この子たちの世代に  
どんな農業を引き継ぐのか。

2024・2・3 訳  
青森中央学院大学  
地域マネジメント研究所  
中川 一徹